



メディア不信—何が問われているのか

林 香里 著

発売日:2017年11月

出版元:岩波新書

いまなぜ「メディア不信」が話題になっているか、だれがその「不信」を語っているか、それがどのような帰結を生みつつあるのか。ドイツ、英国、米国、日本のさまざまな事例をとおり、多くの人々がマスメディアを自分たちの問題として振り返るきっかけになればと願っています。



オーグメンテッド・ヒューマン

Augmented Human

—AIと人体科学の融合による人機一体、

究極のIFが創る未来

暦本純一 監修

発売日:2018年1月 出版元:エヌ・ティー・エス

人が馬を乗りこなす状態の極致は「人馬一体」と呼ばれる。ヒューマンオーグメンテーションは「人機一体」。人間が技術により自然に拡張されていく。高度に学際的な研究領域であり、影響は社会全体の構造変革に及ぶ。本書はこのような多面的な波及効果が期待できるヒューマンオーグメンテーション学の最新状況を解説する。



デザインの小骨話

山中俊治 著

発売日:2017年11月

出版元:日経BP社

Suica改札機の読取機をはじめ、自動車や時計、またロボットから義足まで様々なデザインを手がけてきた山中氏。デザインエンジニアとして、また研究者として、人とモノ、そして自然の仕組みを深く観察してきた。デザインの雑学からスケッチのコツ、フリーランスとしての心得まで、スケッチとともに綴る短編エッセイ集。

「ヒューマンオーグメンテーション(人間拡張)学」
(ソニー寄付講座)サマースクール開催報告

2017年9月21~23日、ソニー寄付講座「ヒューマンオーグメンテーション(人間拡張)学」のサマースクールが開催されました。初日はソニー本社でキックオフが行われ、2日目から3日目にかけて、東京大学のダイユビキタス学術研究館にてグループワークが行われました。

参加者は5つのグループに分かれ、まず初日の講義や見学を踏まえながら「どの感覚をどのようにして変換するのか」について活発に議論を行ないました。その後、3Dプリンター・レーザーカッター・EMS機器などを用いた実装を行いました。

最終日にはダイワハウス石橋信夫記念ホールにて、各班が実装した感覚変換のデモを含めた発表会が行われました。「他人の視線を触覚として感じることでできるシステム」、「人形に与えられた痛みが遠隔の人に伝わるシステム」、「鳥肌をEMSによって再現し、そわそわ感を共有するシステム」などユニークなアイデアが披露されました。発表の後はデモの体験会が行われ、体験を交えた活発な議論が行われました。

(修士課程:木村直紀)



日韓台シンポジウム「Media in Globalized Asia」

2017年11月24~25日、日韓台シンポジウム「Media in Globalized Asia」が福武ホールにて開催されました。東京大学(以下、東大)とソウル国立大学(以下、ソウル大)の間で20年以上に渡って開催されてきた本シンポジウムは、昨年からは国立政治大学(以下、政治大)が加わり、三ヶ国による交流を展開しています。

24日の午前中には、まずオープニングスピーチとして佐倉統学環長がゲスト参加者を歓迎した後、三大学から代表の先生方が登壇しました。その後、メディア論とコミュニケーション研究の分野から、三大学それぞれの教員による研究発表がおこなわれました。

午後には、学生によるポスターセッション(東大9人、ソウル大8人、政治大4人)が実施されました。ニュースメディアと報道、ソーシャルメディアとネットワーク、ゲーム、映画とテレビ研究、世論、国際関係、女性史など、テーマは多彩でした。その後、学生たちはワークショップに参加しました。5つのグループに分かれ、それぞれ本郷周辺の商店に「最近よく売れている品物」と「東京大学の学生に対する印象」について取材をしました。

(修士課程:林 東佑、博士課程:林 意仁、特任専門員:デイビッド・ビュースト)

